

令和4年度 第1回 国産材の安定供給体制の構築に向けた 関東地区需給情報連絡協議会 議事録

1. 日 時：令和4年6月20日（月）14:00～16:00
2. 場 所：オンライン ZOOM ミーティング
3. 出席者：別紙のとおり
4. 議事次第及び配布資料：別紙のとおり
5. 概 要

(1)冒頭挨拶

○栃木県森林組合連合 江連代表理事会長

栃木県森林組合連合会会長の江連でございます。1年間、どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年春からのウッドショック、本年に入ってから泥沼化するウクライナ情勢、また急激な原油高など、我々の業界を取り巻く環境は、これまでになく大きく変化しているところでございます。そのような中、国産材の安定供給体制の構築を目的とする協議会は、学識経験者や国・県のほか、林業木材産業に関わる川上から川下の関係者が一堂に会し開催されるものでございます。林野庁様から提供いただきました最新の資料を基に現状や課題などの情報を共有することで、構成員の皆様にとって有意義な会議となりますことを御祈念申し上げ、簡単ではございますが御挨拶といたします。

(2)議事

○一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会 酒井会長（以下、座長）

本日は、今年度最初の関東地区需給情報連絡協議会となりました。それでは、議事に移りたいと思います。

○座長(酒井氏)

前回は、12月から1月にかけての状況について共有いたしました。その後、2月にはロシアのウクライナ侵攻がございまして、一部の木材が輸出入禁止になるなどの状況になっております。今後、木材需給の動向が注視される場所ですけれども、需給情報につきまして、林野庁の永島様に御説明をいただきたいと思ひます。

○林野庁(永島氏)

木材の需給情報について、資料1～8及び参考1、2により説明を行った。

○座長(酒井氏)

配付資料について一通り説明いただきました。それでは、まずは川下のほうから、どういう部材が不足しているか、価格上昇が見られる合板材の確保はどうしているかなど、報告いただければと思ひます。

○日本木造住宅産業協会(澤田氏)

着工等に関しては、順調かなという感じ。ただし住団連の景況見通しでは、戸建て分譲、戸建注文ともに受注戸数はマイナスで、分譲は価格が上がりにくいけれども、注文のほうは受注金額がプラスになるというふうに見ています。これは高級なものが売れるという意味ではなく、昨今の資材や設備の高騰を意識した上での回答ではないかと見て取れます。そういう意味では、厳しい見通しと感じています。

合板等の逼迫については協会の総会等でも質問が出ましたが、一概に少ない、厳しいと

ということではなく、住宅会社各社で、どこから調達しているかで差があり、影響を感じにくいというところもあれば非常に逼迫しているというところもあるようでした。

5月の住宅展示場の来場者は、全国計は2019年並みに戻っている状況でした。去年は近畿圏が低かったのが、近畿圏の来場が増えたことが全国に反映しているようです。関東圏、信越、北陸は昨年度並みです。ただし昨年度並みというのは、2019年の8～9割ぐらいですが、2020年に比べると、かつての来場者数グラフの傾向に戻っており、5月にピークが見える形になっています。

民間シンクタンク9機関から2022、23年度の着工の見込みが公表されました。GDPで補正したもので22年度、23年度ともに86万戸で、昨年度並みで推移すると見られています。しかし資材や設備の逼迫や高騰がどれぐらい影響するか、見通しが立たない感触です。

○JBN・全国工務店協会(二宮氏)

地元茨城県では、19年度までは柱等については、外材が20%くらいで、現地材が20%くらいの使用、それが今、材木屋だと、ほとんどが50%くらい現地の材料で賄っている。製材組合が頑張ってくれたおかげで、工務店のほうは、流通が滞るといようなことはなく、お客に迷惑はかけなかった。

問題は、コロナとロシア、それに中国の半導体の問題で、いろいろな住設建材関係の入荷が非常に遅れてしまっている。完成してもエコキュートがつかないから引渡しは2か月遅れるとか、そういうのがあり、木材関係が非常に高騰してしまった。セメント関係、生コン等も、1立米当たり1万円ぐらいのものが2万円というように高値になってしまっている。鉄骨材も。その流れとして、木造住宅、あるいは非住宅も木造のほうにウエートが置かれてきているところで、ロシアの問題が起きてしまい、困惑している。今、高値で安定されているが、いつ頃これが安く安定した供給をしていただけるのか。ロシアの供給が戦争が終わってもどうなのか知っておきたい。川下としては、エンドユーザーに迷惑をかける範囲といっても、限度があるので、高値安定ではなく、元の値段に戻れるぐらいになってほしい。

○全建総連東京連合会(栗橋氏)

会員の中小工務店にアンケートを今年の3月時点で行ったところ、前年の同期との比較で、構造材、合板、羽柄材、造作材等は、軒並み20%以上の値上がりになっており、高値の状態が続いている。その他の建設資材についても、入荷待ちになっていたり、高値になっていたり、引渡しに関わる作業が今まで以上に大変な状況にある。

価格の転化について言うと、お客に直接価格上昇分をお願いするという形がなかなか取りにくい。特に納期、引渡しの時期との関係でいうと、引渡しが遅くなればなるほど、平時の金額より価格が上がってしまうという、今までに経験したことのない状態が続いて、会員の工務店も相当苦慮している。

アンケートの要望では、国からの様々な事業者向けの補助金や、その顧客に対する住宅、あるいは建築物に関わる需要喚起を持てるような施策をぜひ続けてほしいといったことが、切実な形で多数挙げられていた。

○JBN・全国工務店協会(二宮氏)

ロシアは、合法木材からは除外ということになったのかどうか。

○林野庁(永島氏)

違法木材とはすぐには決定づけられてはいないが、森林認証のFSCでは、紛争木材と位置づけられているので、それ以外の方法を使って合法確認をする必要がある。ロシアイコール違法ということにはなっていないが、確認の手段として整理が必要というか、今まで使っていたFSCのような制度で合法ということはできなくなっている状況だと聞いている。詳しい情報は、確認して、お知らせする。

○座長(酒井氏)

次は、川中のほうへ報告を移らせていただこうと思います。

○協和木材株式会社(佐川氏)

ウッドショックで輸入材の価格が上がった中で、国産材業界としては、少しでもこの機会に多くの国産材を使ってほしいという思いで増産に努めていたが、増産の最大のネックになったのは、乾燥の問題です。それから、特にハウスメーカーに対して機械等級、正確に強度が分かる材、これが供給できなかった。機械等級の強度表示した材を生産できる工場が少なかったという点が最大の問題点だった。その中で、KD材の生産の中で一番のネックは、木くず焚きボイラーを24時間回せるような立地条件の工場というのがそう多くなくて、しかも乾燥機は夜昼動いていますから、残業して多く生産するというのでできない設備になります。そんなこともあって、今回増産できなかった原因かなと思っています。今後、新たな需要に向けて、ロシア材の羽柄材、スギで十分対応できるはずなのですが、KD材の生産力が足りないというのが一つの問題点。

もう一つ、ベイマツの平角、これもスギ対応ということを考えていますが、曲げヤングが低いとか、いろいろネックがあって、なかなか買ってもらえない。それでも少しずつ使っていただけたところを開拓していきたいと考えています。

集成材に関しては、スギ材、スギ管柱に関しては、ホワイトウッドからスギへという流れは、大きく変わってきたと認識しています。ホワイトウッドでもスギでも同等品として使えるものを生産できたと考えています。

今の時点で心配している点は、木材の価格がかなり上がって、輸入材のほとんどが10万円以上の価格になっているわけですけれども、こういう中で木材の需要をほかの資材に奪われないのかという点を懸念しています。特に野縁等でスチールの野縁が使われ出している。それから、根太・大引き等についても、スチールが木材の用途を狙っている。LVLも同じように、間柱や野縁等の木材に変わるものとして需要を狙っている。この辺も考えて、できるだけ早い機会に適正な価格での供給力をつけたいと考えているところです。

○座長(酒井氏)

ウッドショックの頃から、木材離れが一番怖いという方もおられましたが、高止まりが長期化すると、いろいろな問題が出てくるのかとも思います。

○宮の郷木材事業協同組合(森山氏)

スギの3mの製材をメインにやっております。スギ3mの柱、ラミナ、羽柄材、と言った製品は、現状ではまだ動きはいいので増産体制で製材していますが、原木価格は上がったりと、結構横ばい状態が続いています。

住宅着工に関して若干落ちて来つつあるのかなという流れの中で、ヒノキに関しては、土台メインでやっているのですが、だんだん注文数が落ちてきているような状況で、住宅着工の落ち込みに対する懸念というのがあります。

この先、外材から国産材に変えていくというところで何とか頑張っていきたいと考えています。

○株式会社キーテック(栗原氏)

千葉県の上野市事業部と山梨県の合板事業部の二つの拠点を持っています。千葉県のLVLの工場では、ロシア材の影響を大きく受けており、昨年度、生産品目の約7割がロシア材に依存しておりました。それが実質輸入禁止になってしまいましたので、私どもの特長である高い強度のLVLが、現時点で生産ほぼ中止となっています。また、乾燥単板で調達していたことから、ドライヤーのキャパの問題もありまして、生産量そのものが、昨年度比で3割ほど落ちた状態で、この6月まで推移しております。材料として、高強度のロシア材がゼロになってしまいましたので、まずはこの高い強度のものが作り得る代替の国内外の材料を集めて試験をして、供給能力等々、価格の居どころ含めて、体制を整えて

いる最中です。現時点でまだはっきりとお答えできない状況ですので、利用をさせていただいたお客様には、大変迷惑をおかけしている最中です。まずはロシア材に変わり得る材料の選定、生産体制の構築をしている最中です。

山梨県の合板工場は、ほぼ100%国産材を利用している関係で、昨年度のウッドショック含めて、山梨県、千葉県、その隣接する都県の素材業者に協力いただいて、何とか材料がなくなるということは避けられて、フル生産を継続できました。

一方で、合板の価格の居どころが、その他の国産材の事業者とほぼ肩を並べる価格になってきたということで、材料もそれに合わせて、高いところでも調達ができるようになりました。この4、5、6の3か月だけでも、去年同期に比べて2割ほど入荷増になっており、徐々に在庫が増え続けて、今、その調整に困っているところです。生産のほうについては、昨年度同様、フル生産を継続しております。諸外国の影響というのは、まだ大きくはありません。

○新潟合板振興株式会社(馬場氏)

当社は月間で約1,000立方ほどのロシア単板を使用していましたので、かなりの影響を受けているという状況です。国産材転換する動きをしているものの、乾燥機のキャパなどの問題もあって対応しきれていないという状況になっております。

また、ロシアのラーチ材指定だった製品などもあって、どう対応していくか、こちらのほうもまだ模索中というような状況です。国産材の使用量は昨年比1割ほど増えているのですが、それ以上の入荷が順調ということで、若干、過剰在庫気味になっている状況です。

○株式会社ノダ(宇佐美氏)

静岡県内で住宅用建材の製品を作っているのと、素材企業として、MDF及び合板の生産をしています。昨年来、ウッドショックの中、特に静岡県は天候不順ということで、線状降水帯の影響を昨年の夏大きく受けました。そんな中、何とか原木を確保しながら、合板については、昨年度及び今年度に至っても、休日の土曜日をフル稼働での生産を継続しているところです。今年度に入り、出材が一時的に落ち込んでいたものが急激に回復してきており、出材が好調の中、原木の在庫も抱えているところです。安定供給というのがメーカーの責務ですが、引き続き大きな業界の課題として捉えられているのが、原材料の安定供給です。山の施業は補助金行政がついての事業ですが、出材が平準化されたものになっていけば、よりコントロールがしやすくなると考えています。

○中国木材株式会社鹿島工場(柚山氏)

輸入材から国産材、いろいろ取り扱っている以上、為替の問題とか世界の住宅問題、また原木市場問題、いろいろ起きてくると思いますので、そこら辺に対応しながらやっていきたいと考えています。

○座長(酒井氏)

続きまして、各県の木材協同組合連合会からお話を伺います。

○福島県木材協同組合連合会(前田氏)

製材品関係はKD材主体ということで、価格的には一時期、2.5倍から3倍近くにまで上がりましたが、現状では約2倍程度の12万円程度で落ち着いているところです。

製品の荷動きについては、今年初めは少し鈍かったです。3月以降、ウクライナ侵攻以降にまた動きが出始めて、直近では一服感といいますか、動きが少し鈍っているかという状況です。

今後の見通しということで各工場に聞いてみたところ、当面ハウスメーカーとかプレカット工場では、材の手当てがされているようですが、秋以降の需要が不透明だということで、分譲系のところはある程度ストックを持っているということです。戸建て注文住宅で

は、資材価格の高騰等で、お客様が様子見というような動きが出ているということで、今後、下降気味に動くのかなと予想をされているところがあるかと思います。

これからスギの平角の普及に力を入れていかななくてはならないと考えています。

○栃木県木材協同組合連合会(見立氏)

皆さんと大体同じですが、製品の値段については比較的安定していて、10万円前後で推移しています。ただ、住宅状況でいくと、地場のハウスメーカー等は、材料の手当てはできているのだが他の資材の手当てが難しいというところで、落ち込みはしていないが、なかなか契約に至ってない。一番の問題は、地場の個人事業主的な工務店、大工等が、全く先が読めなくて契約できてないという状況に陥っているということです。外材に代わる国産材を増やそうということで、会員企業の中に一般住宅の梁を国産材でハウスメーカーが使ってもらえるところが出てきて、今後、そういった製材工場が出てくれば、国産材の伸びはまだ期待できるのかなと考えています。問題はやはり乾燥機の手当てができていないというところではあります。

○一般社団法人群馬県木材組合連合会(石田氏)

県内の大手製材工場については、引き合いが多く、忙しい状況が続いている。一方、中小の製材工場については、細かい加工品等の受注の注文はあるけれども、量的には少ないような状況になっている。

木材の販売店では、手持ちの仕事が少ない状況です。

製品市場では、価格が落ち着いてきているが、高値で推移している。

戸建ての住宅については、資材価格、木材価格が大分高騰しているため、利益を圧縮しながら対応しているということを経営者等からよく聞く。それもそのまま続くようであれば、ますます厳しくなっていくとのことではあります。

○一般社団法人埼玉県木材協会(佐野氏)

県産木材を使って、新築とか増改築、内装木質化する場合の住宅に補助を行っている。令和3年度は申込みがそれなりにあったのだが、資材の調達に難しいということで、その申込みを取り消すといったケースが少なくなかった。今年度も同じような補助を行っているが、申込みは前年を下回っている状況である。合板の取扱も品薄感が続いていて、価格は上昇している。

○一般社団法人千葉県木材振興協会(武井氏)

昨年からは合板を販売しているが、入荷するとほとんど1日で売れてしまうという状況が続いている。希望どおり配付できなくて、1ロットずつとかそういう形で販売している状況である。JAS構造材の申請が非常に多くて、それだけ木材価格が高騰しているから、工務店も補助金申請されているのかなと感じている。

○神奈川県木材業協同組合連合会(栗林氏)

神奈川も同じような状況で、町場の工務店、元気がない。合板とか、エコキュートとかが不足しているので、完成、引渡しができないとなれば、契約が伸びてしまい、それが受注に結びつかないというようなことが考えられる。分譲系は伸びているようなところもあると聞いている。合板にしる、そういったものが入るルートが違うのかなと。それだけ今、町場の雰囲気がよくない。

○新潟県木材組合連合会(二野宮氏)

新潟の状況も、今までのお話とおおむね似ている。会員三百少々いますが、中小の方が多いので、それぞれの供給元とか取引先の状況で、企業間の格差も結構出てきているのかなと感じている。

供給面については、一時ほどではなく、供給難とか価格高騰への対応も比較的進んでき

たので、それなりにものは入るようになってきている。

ロシアに起因するような構造用合板の供給はかなり厳しい状況にはあるが、それ以外についてはそこそこの状況になってきている。

価格についても、値上がり基調で来たが、おおむね落ち着いてきたところにウクライナ関係の話が出てきた。今のところは、一時ほどの右肩上がりではなくなってきていると感じている。

ショールーム等の来館については、昨年よりまだ1割ぐらい減っているというような状況で、新潟県の場合も分譲系は比較的建っているが、持ち家のほうは全国よりは少しいいのかと思う程度で、地元工務店の出足が鈍ってきたかなという状況にある。

ロシアの関係では、木材貿易についてはそれなりに継続をされながら、そう多くはないが、入荷等は引き続き行われてきている。今後、この先が心配という感じがあるが、再割用の原板もそれなりに入ってきているという状況になっている。

○一般社団法人山梨県木材協会(大竹氏)

県産材中心の製材施設がありますが、県産材の製材品需要が非常に高まっていて、供給が需要に追いついていかないという状況です。

住宅関連やパルプ関連の会員に話を聞くと、それぞれの原木、製材品価格が高騰する中で、契約時と引渡し時の価格差について、心配しているとのこと。そのような状況にあって、高止まりしている木材価格が、秋頃には下がってくるのではないかと感じている会員が比較的多いように感じている。

○静岡県木材協同組合連合会(藪崎氏)

県内の製材工場では、原木は比較的順調に入荷してきているような状況であり、不足感はないが、フル稼働をしている中で、乾燥機的能力によって、これ以上増産というのはなかなか厳しい状況である。乾燥機の設備投資をしようとしてもすぐに入ってくるような状況ではなく、大きな課題になっている。

住宅については、地場の工務店あたりで先行きの不透明感があり、受注というか、契約に結びついていかない例も増えてきていると聞いている。

○座長(酒井氏)

続いて、流通のお話を伺いたいと思います。

○物林株式会社(高井氏)

合板の原木は、先ほど原木在庫が潤沢だというお話でしたけれども、東北地区など、その他の地域もほぼ同じような状況で、特にスギの丸太については土場がいっぱいで、若干調整をしているというような局面で、数か月前とは状況が反転しています。製品については、先ほど林野庁の説明で、東京港の港頭在庫が16万ぐらいというお話でしたが、直近18万ぐらいだったのが、17万5,000ぐらいに若干下がった程度で、かなりの高水準の在庫があるということです。問屋とかプレカット工場、その他の各段階で製材の製品在庫が結構いっぱい、非常に荷動きが悪いような状況になっている。価格の弱含みの見通しが何となく感じられるようになってきている。

また円安で、今後、欧州材や米材がどうなるかというようなこともあるけれども、ホワイトウッド、レッドウッドの、ヨーロッパのオファーの単価は、確実に日本の状況も理解しながら為替の円安を吸収して、なお円建てで下げるような雰囲気が出ている。特に早い段階のもの、交渉で決着したものは、為替の円安を吸収するぐらいで済んだのですけれども、今後、決着するようなものはまだ下がるのではないかと感じているようです。米材は欧州材ほどではないけれども、円安分は吸収するような感じの見通しとなっているとのこと。この週末のランダムレングスを見ると、アメリカの住宅着工、高水準だったのが、5月の住宅着工統計、許可件数ともに下がっている。

ロシア材に関しては、輸入が淡々とされていて、先ほどロシア材の再割原板などが日本

に入っているという話がありましたが、単板など輸入禁止品目以外は、そこそこ国際貿易がされていると見ています。これが今後、持続的かどうかというのは、まだ全く分からない、これから下がる可能性もあるのではないかとということです。

合板に関して、昨日境港の日新合板の本社工場の火災があったというニュースがあり、その状況が明らかになった時点で、西日本の丸太とか製品の動きがどうなるのかという影響が気になっています。

○座長(酒井氏)

製品在庫があるというのは、どういうことなのか。

○物林株式会社(高井氏)

東京港の15号地の製品在庫が非常に高い水準のまま推移しているということ、それぞれ在庫を各段階で抱えているというようなことで、年内ぐらいの使う分ぐらいは、みんな抱えているので、取り立てて買うというような雰囲気はないということで、非常に動きが悪い。先安感が若干あるのかなという雰囲気です。

○座長(酒井氏)

製紙パルプからお話を伺おうと思います。

○新東海製紙株式会社(松永氏)

主に段ボールの表面層(ライナー)、クラフト紙などの産業用紙を作っている。段ボールについては、包装他ECコマース(ネット関係)で、産業用紙系の数量はかなり出ています。逆に、印刷用紙系の紙、新聞とか雑誌系の数量は減っている状況です。

製紙業界の木材チップの集荷は、どこも在庫はないといった状況になっている。原因として、ウクライナの紛争の関係がある。ロシアのチップは完全に止まってしまっている。年間7千トンから1万トンぐらいロシアから日本にチップを持ってきていたと思う。また、ロシアの丸太が今年からなくなって、その分チップが増えるような話もあったけれども、完全になくなってしまったということで、ロシアチップを当てにしていた製紙業界は、それに代わる外国産チップを手当てし始めている。ただ、外国産チップも、中国がチップを使い始め、実際集めていると聞いている。4、5年前、中国が日本からかなり古紙を持って行って、古紙が値上がりした時分がありました。同じように日本向けにアメリカとオーストラリアから持ってくるチップが、全部中国行きになってしまうのではないかと聞いた懸念が聞かれます。外材チップを買っていないので、価格を聞きますと、かなり高い値段で中国が買っています。今後ロシアチップも外材チップも当てにならないといった集荷難環境下で、国内材のものを何とか集めていきたいと思う次第です。

今まで聞いた話の中で、製材向けと合板向けには原木在庫があるといったいい話でしたが、製紙向けの原木で同様の話は上がってきておりません。山梨のチップ業界に聞いてみると、製材用と合板用は原木が出てくるけれども、製紙用と燃料用の原木は出てきません。森林業界は高い値段の仕事しかしません、補助金漬けです。製材用と合板用ですら高く売れる樹種に偏って、樹種バランスも余ったり不足したりというのが繰り返されているのが、当たり前と言われていています。

ここでお願いしたいのは、A材からB材、C材、D材という言い方をする木材ユーザーとしては、国内材の原木を使いたいと皆さん言われているが、では何で使わないかということ、安定的に出てこない。国内のものが安定的に出るような仕組みをしっかりとやっていきたいと思う。非常事態の体制として、国内材を使うような仕組み、安定的に供給できる、国内材で全てが賄えるような、自給自足できるような形ができないかなとお願いしたい。静岡県はまだバイオマスボイラーとかないものですから、県内の市況が固まる前に個別企業で小さいことをせずに、大きいヤードを持って自給自足で安定供給できないかという話を、業界の垣根を越えてやっていけるような形にできればということ、担当者レベルでお話ししはじめていくところではあります。

○座長(酒井氏)

ただいまの最後のお話は、先ほど林野庁から説明があった国産材への転換等への支援とも結びついていくと思います。

○北越コーポレーション(逢坂氏)

弊社のバイオマス発電は、建築廃材由来の木質チップが主な原料です。原料集荷状況としては、新型コロナウイルス感染者数収束に伴い、昨年及び一昨年比では回復傾向であるのですが、未だ2019年の域まで達しておらず、生産者の在庫も低位と、集荷に苦慮しています。特に廃梱包材資材の発生量が減少していて、これはロシア材の輸入規制やウッドショックの影響などと考えられるのですが、それで作られている木材パレットの回収率が高まって、廃棄に回る量が少なくなってきた、燃料に回ってくる量が少ないのかなと思います。

今後の懸念点としては、原油高・運賃コスト上昇により、運送会社からの運賃値上げ要請が日々強くなっていることです。すぐに販売単価に転化できないといった現状がありますので、こういった部分で苦労しています。

○株式会社グリーン発電会津(鈴木氏)

会津で主に未利用材と一般材を組み合わせた木質バイオマス発電を行っています。今のところ、集荷の部分では、年間の計画量、日々の計画量も大体決まっているので、それを協力会社が満たした入荷を続けています。

メガソーラーでもう投資するところがなくなったということで、木質バイオマスという声を聞くのですが、そういったところが入ってくると、林業の知識やその他ないまま入ってきたときに、価格ですとか、いろいろな影響を与えなければいいなと考えています。

地域の林業については、もう7年経って当初よりも生産量全体は上がっていますので、地域の活性化に役に立っているのかなと実感しているところです。

○座長(酒井氏)

ここで一区切りして、質問、意見等お願いいたします。

○物林株式会社(高井氏)

ロシアの関係で、単板が輸出禁止になっていない中国に流れて、合板となって日本に入ってきているというような流れが新たに発生しているということで、情報を共有しておきたいと思います。今、合板の単価が高いものですから、それに向けて中国の会社としては十分採算が取れ、このような流れになっているのかなと思います。ロシアとしても、単板の売り先として非常に重要になっているようです。陸路で持っていけるということで、港湾の混乱、例えば上海のロックダウンも関係なく入ってこられたかと思います。中国の合板のかなりの量が、日本国内の合板需要の一部を満たしているような状況になっていて、むしろ国産合板よりも高い単価でスポットで取引されているというようなことにもなっているようです。

○座長(酒井氏)

貴重な情報共有、ありがとうございます。福島の方から、スギ平角を普及したいとありましたが、国産材が大径木化してきたことの反映かと思うのです。栃木の方からは、梁の部分に国産材の伸びしろがあるのではないかというお話を伺いました。太ってきた日本の森林の需要開拓とか、情報提供いただけますでしょうか。

○日本木造分譲住宅協会(木原氏)

私どもは、三栄建築設計とオープンハウスグループとケイアイスター不動産という分譲住宅が一緒になった協会ですが、スギ平角材が、私どもでも大きな議題になっています。使えるところとして、小屋梁については、既にE65-F225という材料で計算しても、

十分使えることは確認できています。なので、部分的に使えるところにしっかり使っていくというのが大事だと思います。その中で、そのE65-F225という商品が潤沢に市場にあるのかというと、今、あまりないという状況と伺っていますので、こちらの生産量を増やしていくことが大事なのではないかと考えています。

一方、2階の床や3階の床は、国産材に頼ろうとすると、カラマツが重要になってきます。カラマツとスギをどのように使っていくのか、その住み分けが大事ではないかと考えています。例えば24ミリの厚物合板については、既に許容応力度計算においてはスギでもよくなったということになっていきますので、24ミリの表層単板にカラマツを使わずに、全てオールスギ材のものにしてもらって、カラマツを梁材のほうに回してもらおうとか、そのような形で住み分けをしていけば、もっと国産材比率は上がっていくのではないかと考えています。

○座長(酒井氏)

貴重なアドバイスありがとうございます。

○協和木材株式会社(佐川氏)

製材業界としては、住宅の中で一番大きな材積を占めている平角の用途、これをぜひ国産材にしたいと思っているのですが、なかなかこれが実現していない。集成材の要望は多いのですが、平角の要望がない点が残念です。E65-F255、これスギで十分、スギの集成材としてなら可能なのですが、できればこの辺にE70のムクの平角が使えたら、国産材の木材の用途が広がる。この辺の使えるところから使ってもらえたらという思いです。

○座長(酒井氏)

この辺は、林野庁の政策に反映していただいて、国産材のシェアを伸ばす部分かなと思います。

○JBN・全国工務店協会(二宮氏)

スギの平角で、通常、2間までやっているのですが、たまたまその現場は2階床を2.5間飛ばしたものですから、その当時ハイブリッドというものが少なかったの、ほぼスギの平角ということで、大きく安全を見て使いました。そのときにたまたま雨が降っていたので、その上に乗せた2階床梁、床の構造用合板をその梁の上に置いてしまったのがまずかったかもしれないのですが、一旦雨に濡れると、スギというのは、荷重がかかってしまうとたるむという、それでその後、長い間、2年ぐらいかけて、徐々に2階の床が下がっていきまして、真ん中でゴルフボールが転がってしまうという状況で、一旦2階の、1階の天井全部外して、全て鉄骨、合わせ梁で、250のC型鋼を両サイドにボルト止めして、何とか10トンジャッキで持ち上げながら施工したというようなことがあってから、もうスギの平角は使うことはやめよう。計算でオーケーだったとしても、スギはどうしても弱いかなというところで、ハイブリッド材としてスギの習性と、もう一つが上下を何とかヒノキのハイブリッドというものはできないのかなということで材木屋に問合せするのですが、今ありませんということで断られてしまうわけです。ヒノキのハイブリッドはできないのか、教えていただけたらありがたいです。

○座長(酒井氏)

その技術開発とかは、林野庁に伺っておいていただいて、国産材のシェアを伸ばす方向で検討していただければと思います。次に川上に移りたいと思います。

○株式会社フジイチ(石野氏)

皆伐が多くなっていること、単価も高いということで、素材生産は順調に出ています。ウッドショックで大変たかれたので、人を増やしたりしながらやっという心掛けて

います。ですが、川下からは下がってほしいだとか、安く安定してほしいだとかという声もありますし、高値の外材を国産で何とか調整したいという、地元からの声も聞かれます。

また、乾燥機がないからスギの使い道があってもなかなか増産できないという発言もありまして、そうすると、増産しても受け取ってもらえないのではないかというおそれも持っています。

ロシア材があふれているとか、中国から合板が来るとか、買い過ぎて買えないとかという話がある中、今後のことはかなり怪しいというような話もありまして、困惑しているところです。

木材というのは、出し始めると止まらないという一方で、どうしても出さなくてはいけないという宿命もありますので、ウッドショックの中で増産しようとしている中で、山側からすると、はい、そうですかというわけにはいかないという声が多いです。

○座長(酒井氏)

今、皆伐も出てきて素材も順調だということなのですが、ここで苗木のほうのお話もお聞きかせください。

○茨城県林業種苗協同組合(大越氏)

今年も前年度、一昨年とあまり変わらなかったです。ただ、コンテナ苗が増えてきて、今年、裸苗(露地苗)が余ってしまいました。植えつけしやすく、活着しやすく、植え付ける時期も長いコンテナ苗が普及していくのだなと感じているところです。もう6月で、日中30度を超えるときもあるのですけれども、茨城県はまだ植えている地域があります。何が起きているかという、労働力不足です。限られた人で、造林が増えてくれているので、ありがたいです。国とか県の施策で、茨城県は造林面積も増えているのですけれども、そこに人が追いついてないというのが実情です。

○神奈川県山林種苗協同組合(力石氏)

素材生産量のほとんどが、間伐によって出されています。そういった関係から、苗木の需要の低迷状態が毎年続いており、需要量の拡大と計画生産の確保が重要な課題となっています。このまま推移しますと、さらに生産意欲の影響など、後継者対策にも悪影響を及ぼすことになり、苗木生産を取り巻く情勢は、非常に厳しいです。

コンテナ苗の無花粉スギの需要が減少し、少花粉スギのコンテナ苗の需要も少なく、ヒノキの裸苗も多く残苗が出ていて、需要拡大に取り組むことが必要とされています。コンテナ苗の生産を開始してから6年経過したのですが、まだ試行錯誤の部分があることから、今後もさらに、情報交換会や研修会の開催が必要とされています。

後継者不足として悩んでいたところ、系統の森林組合が今年、苗木生産者登録しましたので、少し明るい光が出てきたというところです。

○座長(酒井氏)

県森連としての報告もお願いします。

○神奈川県森林組合連合会(力石氏)

共販の木材販売では、昨年からウッドショックで木材価格が上昇していて、ピークが昨年の11月頃で、それから徐々に下がってきてはいるのですが、まだ3mのヒノキの柱で2万8,000円から29,000円で取引できている状況です。しかし、令和3年度の共販事業の取扱量が、計画に対して75%と非常に低迷して、ウッドショックによって価格が上がったにもかかわらず、出荷がなかったということについて、残念な状況です。

合板については、県内に合板工場がありませんので、ヒノキのB材については、県外の合板工場に送って作成していただいた合板が県産合板として県内で流通している状況です。その合板も、今、全国的に合板が不足しているので、作れば作るだけ販売できる状況で、原木を確保するために価格を大幅に値上げしたところですが、原木の入荷不足によっ

て思うように製品が作れない状況です。チップ事業におきましては作れば作るだけ買っただけののですが、こちらも原木が不足していて、4月から6月の3か月間で計画の50%にとどまっている、全て悪い状況です。

○座長(酒井氏)

また苗木に戻ります。

○静岡県山林苗種協同組合連合会(後藤氏)

静岡県では、生産量はここ数年50万本から60万本の推移で、大きく増えるということがなくて、今年については残苗が多分生じてきます。古い苗が、普通苗では40%、コンテナ苗では60%という形で増えてきているのが事実です。こういう中で、主伐は進んでいるのだけれども、それが造林に本当に結びついていないのではないかというのが実感で、主伐再造林に進んでほしいと思っています。

○座長(酒井氏)

森林組合関係からお話を伺おうと思います。

○茨城県森林組合連合会(佐藤氏)

常陸大宮市の宮の郷工業団地で、原木市場を開設しています。昨年久々に8万立方近い取扱量になっています。スギの土台が、1月の頃は3万円だったのが今2万5,000円ぐらい、スギ柱材が2万円を超えていたのに、今1万5,000円ぐらいになっています。ただ、落札率は95%以上続いているので、今のところは順調ですけれども、買い方のほうで製材ストックがあるのかどうか、持ち出しが遅いというような状況になっています。

原木の供給は、比較的今年も順調です。これから国有林材も入ってくるということになります。森林組合の入荷、昨年は結構増えていたということもあります。

工業団地内に乾燥施設を増設するというのもあって、今後、原木、製材が進んでいけばいいと思っています。

○栃木県森林組合連合会(福田氏)

共販所が3共販所あり、入荷はまちまちな状況です。地区によっては、入荷のほうも落ちついてきています。価格のほうも茨城県森連と似たような感じですが、スギ柱材は、1万6,000円代から1万7,000円に届くぐらいです。

ヒノキの柱は2万5,000円から2万6,000円、ヒノキ中目材、4mの22から28cmは、今年の年初めに比べると大分値を下げて、年初めの頃は3万円近くしていたのが、今、2万4,000円前後まで落ちています。ヒノキの4m、18から20cm、土台のほうは何とか2万8,000円前後で年明けから持っているようなところではあります。

天気もここにきて雨が続いたり、虫害も出始まっているので、入荷のほうは今後、多少は落ち着くのかなというところですが、今の価格からすれば、秋以降、入荷は増えてくると思います。

○群馬県森林組合連合会(鈴木氏)

この時期、どうしても虫が入り始めるので、売りづらい。先ほど合板各社が、在庫がいっぱいだという話が出ていたが、スギの大径材を合板向けで伐っているが、合板がいっぱいという話になっても、途中から変えづらい。スギの大径材を売るのが多少苦労しているところがあり、合板は大径材のほうの方が単価はいいのだが、いっぱいでは買えないという話になると、今後、どういう方向になるのか。外材を国産材に転換するというときに、何が一番しやすいのか、今までどおり4m、3mに切っていればいいのか、その辺も要望があれば、応えていきたい。

○新潟県森林組合連合会(中山氏)

降雪等の影響もあって、昨年の12月から今年の4月くらいまでは、新潟共販市場の在庫量は非常に少なく、少ない材を取り合うという形で、価格の上昇にはつながっていません。

4月の中旬頃から安定した入荷となってきているが、給湯器やトイレ等の設備の入荷が非常に遅れているということも関係して、住宅の着工が非常に遅れており、地元の工務店はなかなか元気がないという状況になっている。また、時節柄、虫の影響も出てきており、木材価格や販売量とも減少しているという状況になっている。

材価については、スギ柱材で一時、5月では4mの柱材で1万8,000円をつけた時期もあったけれども、今は、約1万5,000円から1万6,000円で落ち着いている。

○静岡県森林組合連合会(望月氏)

共販単体でいうと、他県とそれほど変わりはないですが、4月ぐらいから3m、4mとも、4寸角を使う寸面のところ、18cmから20cm、22cmぐらいのところ、少し動きが鈍いという形になっています。これは、住宅単体でいうと、3号角が主流になっているからということも影響はしているのですが、4寸角の需要がこれからどうなるのか、また、素材は出だしたら止まらないものですから、外材やウクライナとの関係がこの先が見えないところがあって少し不安の要素があるところです。それ以外の品目については、各県森連とほぼ同じかと思えます。

○座長(酒井氏)

国のほうからお願いいたします。

○国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター(久保田氏)

令和4年度の販売予定量については、9,000立米になる。間伐が1,000立米、主伐等が8,000立米。

過去3年間の平均事業面積比は、間伐の3か月平均92ヘクタールに対して、令和4年度の予定が31ヘクタール、比で34%、主伐等が3か月平均10ヘクタール、令和4年度の予定として28ヘクタール、比で280%増です。

今後、国産材の安定的な供給が求められることを踏まえて、地域の木材事業に貢献していく予定です。

○関東森林管理局(山口氏)

今年度、当局管内の木材生産量については、昨年とほぼ同量ぐらいを予定している。販売量もほぼ同じになる。その中で、今年は、昨年、一昨年の市場の動向等も踏まえて、昨年82%ぐらいだったシステム販売の割合を少し下げて、今年度は76%ぐらいにして、市場とかで売る量を少し増やすというようにしています。

システム販売も、一部、夏以降に契約を協定するものを残しています。先週、国有林材の供給調整検討委員会を開催しましたが、今の状況についてはご説明いただいたとおりですので、今年度の事業については、計画的に実行していくということで、一昨年、昨年のような出材の調整、前倒し、抑制は、今のところは予定しておりません。

今後、何かの動きがあれば、供給調整検討委員会等を開催して、意見を伺って対応していくと考えています。

○座長(酒井氏)

都道府県の方からはお伺いしていませんが、全体を通じて、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

林野庁から、国産材転換の対策事業のお話ございました。この中で、一時保管に対して債務保証をしてくれるという話がありました。川上から川下まで、産業構造としてリードタイムがあるということで、川中では乾燥炉がボトルネックになっているということで、今も支援があると思うのですが、川上のほうでも一時保管に対して助成、債務保証します

ということで、これがリードタイムの短縮につながっていけばいいのかなと思います。一時保管も、売れ残りではなくて、需給バランスを取るためとか、置いておくことによって乾燥を進めて価値を高めるということで、製品の劣化をさせていくということでなければ、積極的に取り入れていけばよいと思います。

川上から川中、川下の間でリードタイムを短くして、先ほど、山のほうも出せと言われてもすぐには出せない、あるいは出始めたら止められないよということがございましたけれども、うまく需給バランスを取れるようにしていただければと思います。

○JBN・全国工務店協会(二宮氏)

全体的に工務店は、1トン当たりおおよそ200万円から300万円で値段が高くなっております。その部分で買い控えをしている人たちがいます。工務店として、木材等については、何とか高値の安定はセーフなのですが、急遽値段が変わったりして上がると、各々の会社を取り込むか、お客様に追加を申し出るかでトラブルを発生させるようになるものですから、国内産で循環型の材料供給、これができるようになれば、高値であっても安定していれば、トラブルにならないです。工務店としては、国産材は高いから駄目だという意見では全くございません。

○座長(酒井氏)

工務店は、エンドユーザーとの接点、窓口になりますので、貴重な情報だと思います。そういった御意見を踏まえて、サプライチェーンといいますか、需要デマンドチェーンといいますか、需要に応じて、対応していけるようになればと思います。御意見があれば、事務局のほうにお寄せいただいて、林野庁にフィードバックしていただければと思います。

6月21日には、中央需給情報連絡協議会が開催されると聞いております。各地の状況につきましては、林野庁から情報共有されることになっています。予定の時間が来ましたので、この会を閉じたいと思います。

○司会(土谷)

議事概要の公表について述べ、閉会とした。

(以上)